



三月(大) 弥生 女宿

(三月六日啓蟄の節より
月命巳卯四緑木星の月
晴剣殺東南方)

日 正月小
二月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	満潮	干潮
1日	日	ひのえ	ね一白	奈良東大寺二月堂修二会、不成就日 旧正月小	十一	大安	ひらく	虚	母倉	6.12 17.36	13.43 3.01	8.36 20.52
2日	月	ひのと	うし二黒	一粒万倍日	十二	赤口	とづ	危	神よし	6.11 17.36	14.37 3.44	9.25 21.37
3日	火	つちのえ	とら三碧	ひな祭、耳の日、新潟浦佐押合祭、 天しや、小つち	十三	先勝	たつ	室	よろづ よし	6.09 17.37	4.22	10.02 22.15
4日	水	つちのこ	う四緑	春の全国火災予防運動(1日~7日)、 旧小正月	十四	友引	のぞく	壁	神よし	6.08 17.38	4.58	10.34 22.49
5日	木	かのえ	たつ五黄		十五	先負	みつ	奎	天おん	6.07 17.39	5.31	11.04 23.21
6日	金	かのこ	み六白	啓蟄六時五五分、○望三時〇五分	十六	佛滅	みつ	婁	十し	6.05 17.40	6.03	11.33 23.50
7日	土	みづのえ	うま七赤	消防記念日	十七	大安	たいら	胃	神よし	6.04 17.41	6.34	12.01
8日	日	みづのこ	ひ八白	国際婦人デー	十八	赤口	さだん	昂	天おん	6.03 17.42	7.05	12.29
9日	月	きのえ	さる九紫	茨城鹿島神宮祭頭祭、十方ぐれ入り、 不成就日	十九	先勝	とる	畢	神よし	6.01 17.43	7.37	12.57
10日	火	きのこ	とり一白	塩竈神社帆手祭、旧二十日正月、 一粒万倍日	廿	友引	やぶる	觜	ぶく日	6.00 17.44	8.12	13.26
11日	水	ひのえ	いぬ二黒		廿一	先負	あやぶ	参	五む日	5.58 17.44	8.49	13.59
12日	木	ひのと	る三碧	奈良東大寺二月堂お水取り	廿二	佛滅	なる	井	大みやう	5.57 17.45	9.30	14.40
13日	金	つちのえ	ね四緑	奈良春日大社祭	廿三	大安	おさん	鬼	母倉	5.56 17.46	10.17	15.40
14日	土	つちのこ	う五黄	●下弦二時四八分、近江八幡左義長祭	廿四	赤口	ひらく	柳	月とく	5.54 17.47	11.08	17.23

春らしい陽気の日がある
と思うと、急に真冬に立ち
返ったような寒い日もある
月で、気温だけでなく、天候
も激しい変わり方をする。
関西では、十二日の奈良の
お水取りが終わらないと春
がやってくる、と言いつた
られ、一方、暑さ寒さも彼
岸までと云うことわざのあ
るが、気温の不安定さを
物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節
句」である。もともと「上
巳の節句」といつたもの
で、これが桃の節句や、雛
の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしい
が、現在のようになつたのは近年
段の形式になつたのである。女の
子が初めて迎える桃の節句
を「初節句」といい、雛人
形を飾つてその子の将来を
祝う。内裏雛(だいりびな)
のは、幼女が成長して、よ
い結婚生活を送るよう願
う心の現れである。

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	満潮	干潮
15日	日	かのえ	とら六白	京都嵯峨釈迦堂お松明、三隣亡、 一粒万倍日	廿五	先勝	とづ	星	きこ	5.53 17.48	12.05	19.06
16日	月	かのこ	う七赤	西宮広田神社例祭	廿六	友引	たつ	張	ぶく日	5.51 17.49	13.07	20.19
17日	火	みづのえ	ひ八白	不成就日	廿七	先負	のぞく	翼	●	5.50 17.50	14.14	21.14
18日	水	みづのこ	み九紫	彼岸入り、天一上、 石川氣多大社おいで祭(23日迄)	廿八	佛滅	みつ	軫	十し	5.49 17.50	15.23	22.02
19日	木	きのえ	うま一白		廿九	大安	たいら	角	神よし	5.47 17.51	16.16	22.45
20日	金	きのこ	う二黒	●朔一八時三六分、 上野動物園開園記念日 旧二月大	朔	友引	さだん	亢	大みやう	5.46 17.52	17.01	23.25
21日	土	ひのえ	さる三碧	●春分の日、春分七時四五分、彼岸中日、 一粒万倍日	二	先負	とる	氐	神よし	5.44 17.53	18.55	—
22日	日	ひのと	う四緑	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式、 一粒万倍日	三	佛滅	やぶる	房		5.43 17.54	20.04	12.19
23日	月	つちのえ	いぬ五黄	鹿児島霧島神宮お田植祭、 世界気象デー、社日	四	大安	あやぶ	心		5.42 17.55	21.11	12.57
24日	火	つちのこ	み六白	彼岸明け	五	赤口	なる	尾	母倉	5.40 17.56	22.15	13.36
25日	水	かのえ	ね七赤	電気記念日、奈良薬師寺花会式(31日迄)	六	先勝	おさん	箕	母倉	5.39 17.56	23.14	14.17
26日	木	かのこ	う八白		七	友引	ひらく	斗	五む日	5.37 17.57	—	15.07
27日	金	みづのえ	とら九紫	●上弦一六時四三分、京都表千家利休忌、 旧こと始め、旧針供養、三隣亡、一粒万倍日	八	先負	とづ	牛	大みやう	5.36 17.58	0.09	16.15
28日	土	みづのこ	う一白	京都裏千家利休忌、 東京品川千体荒神大祭	九	佛滅	たつ	女	天火	5.34 17.59	1.42	17.50
29日	日	きのえ	たつ二黒	不成就日	十	大安	のぞく	虚	●	5.33 18.00	2.22	19.15
30日	月	きのこ	み三碧		十一	赤口	みつ	危	十し	5.32 18.00	3.25	20.18
31日	火	ひのえ	う四緑	旧初午、宮城岩沼竹駒神社初午祭	十二	先勝	たいら	室	神よし	5.30 18.01	4.28	21.06

【婚】婚礼の最も多い月の
ひとつである。ことに大安
の日となれば、式場はスケ
ジュールが完全にうまつて
いるという。誰しもがよい
日を選ぶのは当然である
が、婚礼は本人同士の誓い
を中心し、近親の承認と祝福
を得れば十分。結婚披露宴
は、大宴を張るよりも時間
内にムードを盛り上げるよ
う工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明
けまでの「春分」を中心し
た七日間は春のお彼岸で
ある。真西に太陽が没する
この期間、西方に浄土があ
るといふ仏教の教えから、
無欲悟道の対岸の域に一番
近い日とされ、死者の冥福
を祈り、仏供養、墓参など
をする。

【祭】奈良東大寺の二月堂
では、十三日未明に堂前の
若狭井の水を汲んで加持を
行う。これは厳しい戒律の
もとに千数百年にわたって
続けられてきたわが国を
の重要行事である。
春分、秋分に最も近いつ
ちのえの日を「社日」とい
い、農耕の神を祭る。社日
の社は「示」と「土」から成り
立ち、土の神の意味である。